

令和5年11月23日（木）午前11時00分～

# おりい 折居遺跡現地説明会資料

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## ■はじめに

折居遺跡は、花巻市太田地区第27地割に所在する遺跡です。遺跡の北西側を流れる寒沢川によって形成された標高約120mの段丘上に立置しています。この一帯は、土器や石器が数多く出土する場所として、地元では古くから有名な場所であったようです。本調査は、農業農村整備事業に先立って、令和5年7月から行っております。

## ■調査の概要

令和5年11月23日現在までの調査で次のような遺構・遺物が見つっています。

※遺構数はいずれも11月15日時点

### 【縄文時代前期初頭～前葉（約6,500年前）】

調査区中央を北西から南東方向に横切るように見つかった沢跡を挟んで南側から狩猟場が見つかりました。時期の決め手となる遺物などは見つかりませんでした。周辺遺跡の事例より、この時期の遺構と判断しています。

〈遺構〉

陥し穴状遺構5基

### 【縄文時代前期末～中期初頭（約5,500～5,000年前）】

段丘の頂上部とみられる調査区北側から集落が見つかりました。集落の特徴としては、竪穴住居と貯蔵穴などの土坑類から構成されていることが挙げられます。また、この時期に特徴的な「大型住居」と呼ばれる平面形が長方形で、長辺10mを超える規模の住居が複数棟見つっています。

〈遺構〉

竪穴住居12棟（縄文時代前期末～中期初頭）、大型住居5棟（縄文時代前期末）、土坑48基（縄文時代前期末主体）

〈遺物〉

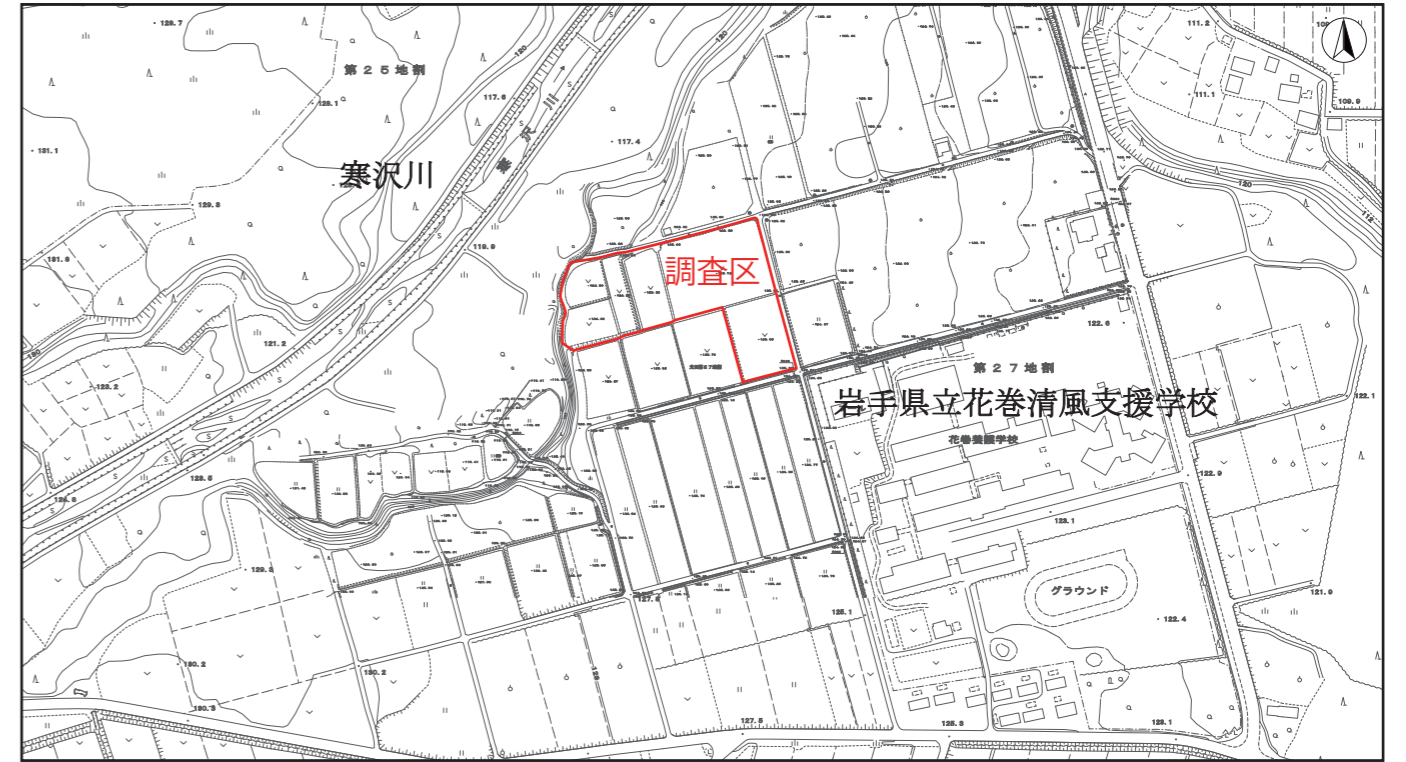
縄文土器（大木6式期主体）、剥片石器（石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石筥など）、礫石器（磨製石斧・敲磨器類・半円状扁平打製石器など）、土製品（土偶・土玉など）、石製品（玦状耳飾り・垂飾品など）

### 【縄文時代後期中葉（約3,500年前）】

トレンチによる調査を進めた調査区西側から縄文時代後期中葉の遺物が見つっています。遺構は確認できませんでしたが、周辺にこの時期の集落が存在することが考えられます。

〈遺物〉

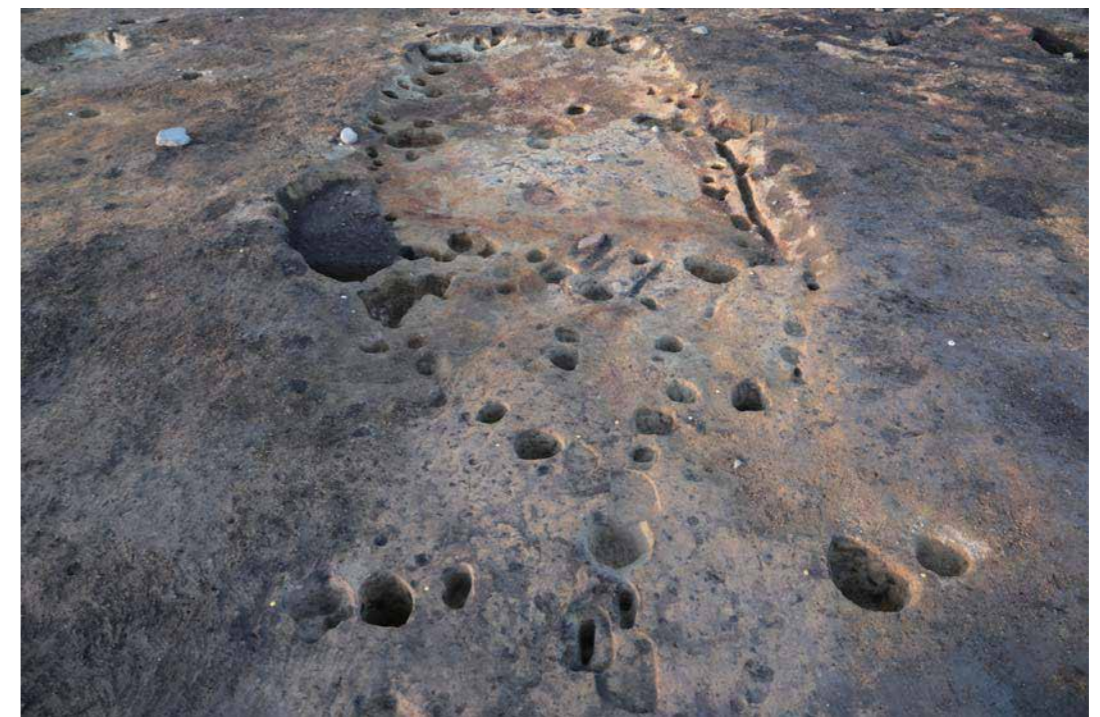
縄文土器、土製品（キノコ形土製品、スタンプ状土製品など）



折居遺跡周辺の地形（縮尺1:5,000）

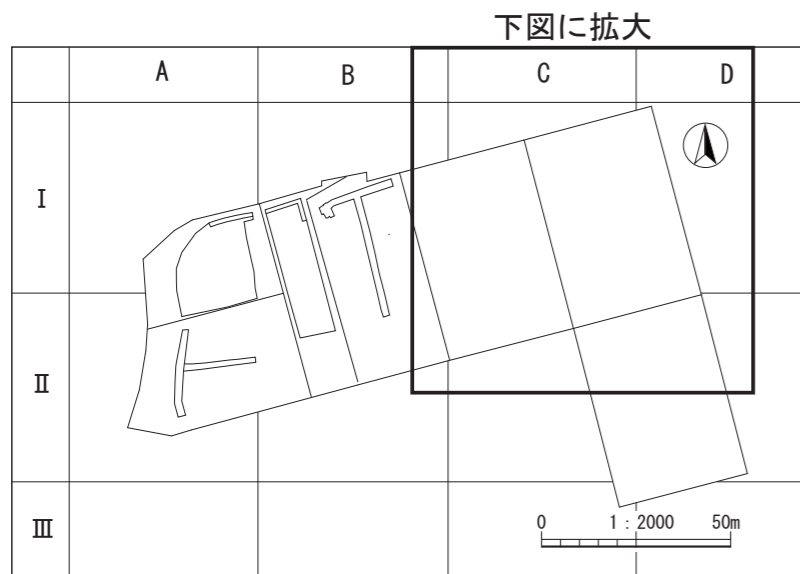
## ■大型住居とは

縄文時代前期の一般的な竪穴住居の規模は1辺が5m前後の楕円形や長方形が大半です。大型住居は一般的な住居をはるかに上回る長辺10m以上の規模の竪穴です。縄文時代前期末～中期初頭頃にかけて特に多くみられ、平面形は細長い長方形をしています。建物が大きいので、屋根を支えるための柱も多く、中央の軸線上に炉（火を焚いた跡）が複数並ぶのも1つの特徴です。同じ場所で、作り替えや拡張などを行うためか、壁溝が複数めぐるものや柱穴が何重にもめぐるものもみられます。一説には、集会所のような施設ではないかとされてきましたが、近年では、複数の世帯が同居した長屋のような建物とする説が有力視されています。



見つかった大型住居（縄文時代前期末頃）





折居遺跡 調査区全体図



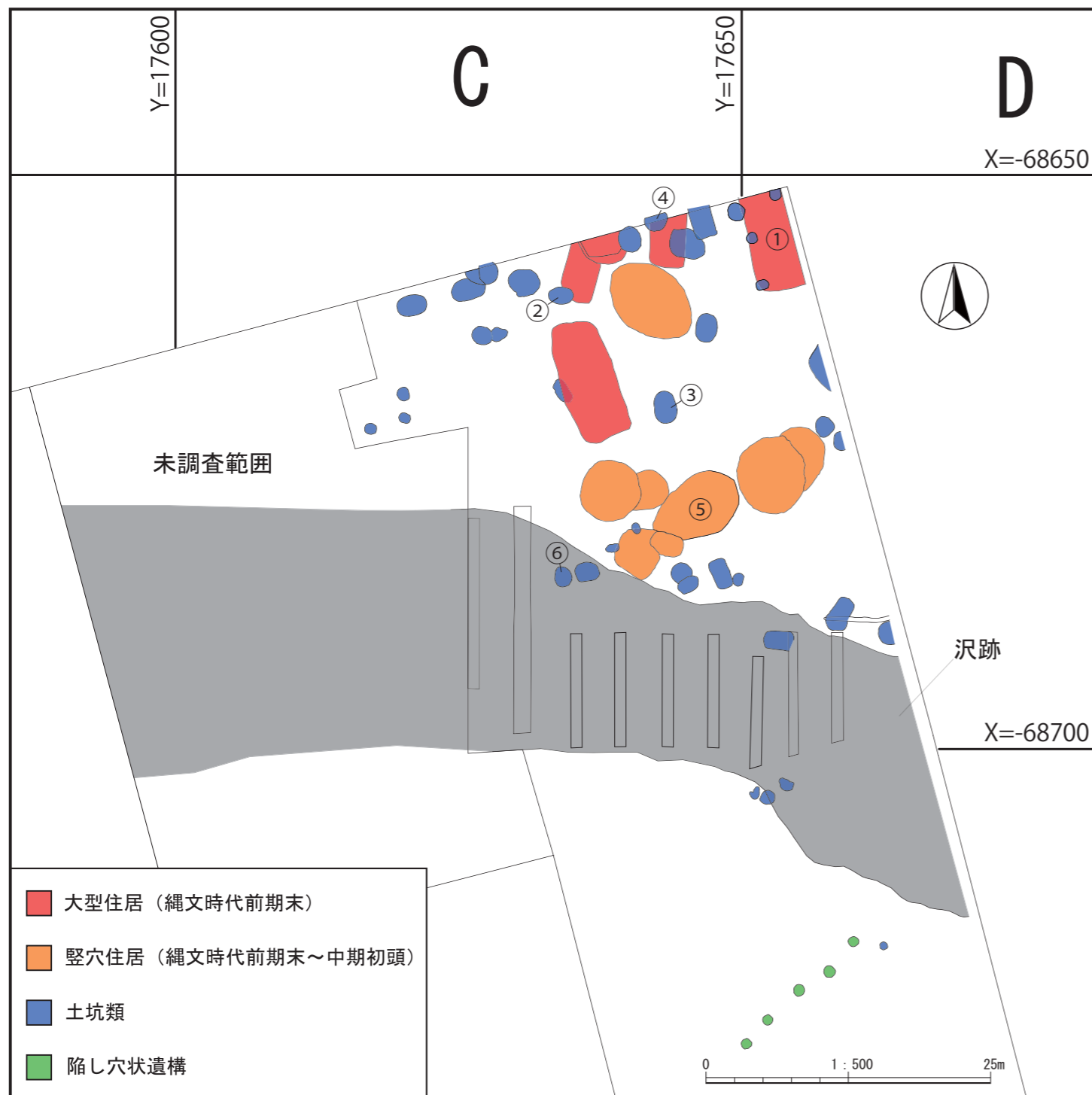
① 大型住居（縄文時代前期末頃）



② 縄文土器が廃棄された土坑



土坑から出土した縄文土器（大木6式期）



折居遺跡 遺構配置図（令和5年度調査分）



③ 底に柱穴列のある土坑



④ 貯蔵穴（フラスコ状土坑）



⑤ 石囲炉を持つ竪穴住居（縄文時代中期初頭）



⑥ 底から耳飾りが出土した土坑



見つかった石器類



見つかった土製品・石製品